

～洛西からの一読～

今回のテーマは「科学は身近！」

不思議だなと思う気持ちで回りを見てみると、花のつぼみも、一枚の葉も蝶々も調べ物の対象になります。虹が見えることも、雲の形が変わることも調べてみるとおもしろいです。夏休みを迎え、身近な不思議を探してみませんか？科学を身近に体験してみてください。



宇宙 —そのひろがりをしろう—

加古里子 ぶん・え 福音館書店

夏の夜空を見上げると、天の川にアルタイ、ベガ、デネブと星の世界が広がっています。今届いている光は10年以上前の光だよと言われても・・・、今見えているのです。

宇宙は、地球を飛び出し遙か彼方に、未知数の世界でおおいつくされているかのようです。「ノミ」のジャンプから始まり、虫や人、ロケット、星の進化・・・とページが進むにつれて世界が広がっていきます。最後のページでは人類が知り得た宇宙のはてに到着しています。作者は子どもたちに宇宙の広さを伝えています。内容が専門的で緻密に描かれ、情報量も多いです。理解できる場所もそうでない場所もたくさんあります。作者の「解説」を読むことで知識は深まりそうです。宇宙に興味を持ち始めた時にこの本と出会い、もっと知りたいと思う気持ちを育ててください。「地球」「海」「かわ」・・・等々、読んでみたい作品がいっぱいあります。

雑草のくらし—あき地の五年間—

甲斐信枝 さく 福音館書店

畑をかりて空き地にし、植物の観察が始まりました。春になるとぽつりぽつり緑色の若い芽が伸び始めます。その側にはくもやアリがせせとこぼれた種を運んでいます。

これから命のはぐくまれていく予感がします。画面に描かれた植物たちは夏になり背丈がぐんぐんと伸びています。細かなスケッチと観察眼で明き地の5年間が描かれています。ページをめくるたびに植物たちの表情、種類も変わってきています。草の伸び方、根の張り方、植物たちの勢力争いが行われています。種の生き残りをかけて。年々荒れ果てていく元畑は、植物たちの生きようという姿に勢いが感じられます。

各々の植物が細かに丁寧に生き生きと描かれ、雑草とくられてしまった植物にも個々の生きざまがあるようです。この作者には「あしながばち」「もんしろちょう」「たけ」・・・等々科学えほんの作品が数多くあります。